



記者手帳

原油価格が1ドル70
円付近で落ち着いて
いることから、廃プ
ラ価格が安定
してきた。

廃プラ輸出と国内利用

プラスチック
処理促進協
会のデータ(200
7年)によると、廃
プラの年間排出量は、
約1000万トンで、
毎年同程度の数量で
推移している。一般
廃棄物と産廃は、ほ
ぼ半分の割合だ。再
利用量は、723万
トン(07年)と意外に
も多く、7割を優に
超えている。再利用

の方法で最も多いの
が、廃棄物発電で年
間289万トンだ。内
訳は、産廃系が99万
トンで3分の1、一般
廃棄物が190万トン
で3分の2を占め、
年々一般廃棄物のご
み発電の施設が整備

に多く、147万トン
で7割近い。一廃が
66万トンで3割ほど
だ。

「マテリアルサイ
クル」の増加の理
由は、輸出量が増え
ているからだ。07年
の廃プラ輸出量は、
約152万トンで、P
ETボトルが35万ト
ンを占めている。廃

年152万トン(前年
比22万トン増)という
ように、毎年20万トン
以上増加してきた。
昨年(08年)は、1
51万トンと、前年比
と同程度になった
が、これは後半のリ
ーマンショック以
降、まったく輸出が
できなくなったから
だ。予測では、17
0万トンだっ

されていることが見
てとれる。

ラ排出量の中で、輸
出量が15%にまで達
してきたことにな
る。

ラを目的にした輸出
は、ほとんどない。
全量がマテリアル利
用と推測される。

チックを扱う事業者
は、金属類と比べ、
中小零細企業が多
い。不況の波をもち
に被る。昨年末に廃
業、転業した廃プラ
関連のリサイクル業
者は、日本でも半数
以上に上る。安定し
た市場になり初めて
リサイクル業界は成
長できる。(波)

多い再生方法は「マ
テリアルリサイク
ル」の213万トンだ。
前年よりも9万トンも
増えた。増加率は再
生方法の中で最も多
い。前年よりも産廃
も一廃も同程度増え
た。産廃系が圧倒的

廃プラ輸出は、ほ
んどマテリアル利
用と見られている。
マテリアルはサーマ
ルと比較して輸出金
額が高いからだ。07
年で見ると輸出金額
は、52円/キログラム

振り返って見る
と、廃プラ輸出量が
年間100万トンを超
えて超えたのが、05
年106万トン(前年
比20万トン増)で、翌
06年130万トン(前
年比24万トン増)、翌07

た。ともか
く、プラス